

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立三瀬小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の定着や学力向上及び健康・体づくりについて、児童が自ら意識して主体的に取り組む力の育成を目指して、家庭との連携を図っていく必要がある。</li> <li>・今年度に引き続き、児童数が減少していく現状を踏まえ、家庭や地域、中学部と連携し、三瀬の地域・自然・地域人材を活用して交流しながら学習や行事を進めていくことで、三瀬を愛する心を高めるとともに、コミュニケーション力や、表現力の向上を図っていく必要がある。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	<b>ふるさとを愛し自信と誇りをもち、未来を拓く子どもの育成 「学び・こころをつなぐ小中一貫教育の実践」</b>
----------	--

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 9年間の学びをつなぐ小中一貫教育の取り組み</li> <li>② 志を高める教育の推進</li> <li>③ 学力の向上（基礎・基本の充実）と自己教育力の育成</li> <li>④ 一人ひとりを大切にする教育の推進</li> <li>⑤ 豊かな心を育む教育の推進</li> <li>⑥ 健やかな体を育む教育の推進</li> </ul>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・児童の実態に応じて、学びを深めることのできる授業の実践	○少人数や個人でも学習が「深める」ことができる学習スタイルの構築を目指し、全職員が1回以上の研究授業を行い、研究を進める。	・研究授業の前と後で、校内研のグループ毎に協議を行い、少人数や個人でも学習を「深める」ことができる実践事例を積み重ねる。		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業で、進んで考えることができたと答える児童の割合を80%以上」 ○「道徳の授業によって豊かな心を育てている」と答える保護者の割合を80%以上	・道徳の授業づくりの工夫を行うとともに、保護者アンケートを実施して、指導改善に役立てる。 ・道徳の授業を年に1回以上保護者に公開する。						
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○心のアンケートで「子どもの様子について不安なことがありませんでしたか」の問いに、「ない」と答える保護者95%以上、「嫌なことや悲しかったことがなかった」と答える児童95%以上とする。また、アンケートから得た事案については100%対応する。	・毎月末、保護者・児童全員に対し、「いじめのちを考える心のアンケート」を実施し、気になる事案があれば直ちに対応する。SCと連携を図り、心のケアに努める。 ・児童支援、学級経営を円滑に行うため、QUTEストおよび教育相談週間を2回実施する。						
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童80%以上	①児童のよさが発揮できる教育活動を行い、認める声掛けをする。 ②キャリアパスポートの内容を工夫し、自身の家容や成長を自己評価したり、振り返りすることができるようにする。						
	○人権・同和教育の充実	○「いやなことや悲しいことがなく、学校は楽しい」と答える児童の割合を80%以上 ○人権意識を高める。	・「ほかほかの木」(よいところ見つけ)を実施する。 ・学期に1回、人権教室や人権集会を実施する。 ・異学年集団による毎朝の登校班や縦割り班活動を実施し、児童間の交流を図る。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で300分以上の児童80%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童90%以上 ③児童の交通事故を0(ゼロ)にする。	①縦割り班での遊びの時間を定期的に設けるとともに、雑談び大会等を実施する。休み時間の外遊びを奨励し個々の健康維持と体力の向上を図る。 ②給食の時間等の指導を通して、食育を推進していく。 ③交通安全教室を開催し、安全な自転車の乗り方や歩行の訓練を行った。地区児童会、集団下校、学級活動の中で継続して指導したりする。						
	○基本的生活習慣の定着	○毎週、週のはじめに生活チェックを実施し、「ハンカチ・ティッシュを持っている」「爪を切っている」「朝ご飯をたべている」のすべてが○の児童を90%以上にする。 ○1日3回歯を磨く児童を80%以上にする。	・週1回生活チェックを実施し、放送やおたよりで結果を知らせる。 ・6月と11月に歯みがきががんばり週間を設定したり、長期休業中の歯みがきカレンダーを配布したりして、歯みがきの習慣化を図る。						
●特別支援教育の充実	●業務効率化の推進と時間外在職等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・職員各自に時間外勤務の月平均40時間以内を目標に、互いの分掌事務遂行の手立てを共有することで、タイムマネジメントについて意識を高めさせる。 ・会議は時間厳守で、連絡事項等は簡潔に行う。また、長期休業中は、会議や研修を集中して行い、教材研究、学級事務等の時間を確保し、年休取得につなげる。						
	○職員の心身の健康	○年間年休取得14日以上を目指す。 ○本校独自に設定したストレスサイン10項目のうち、該当するものが2項目以下の職員80%以上を目指す。	・心身の健康のために、休暇を取得するよう呼び掛ける。 ・心身の不調を防ぐために、コミュニケーションを大切にし、ケアの充実を図る。						
○全職員による共通理解と校内支援体制の充実	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教職員80%以上	○特別支援教育に関する講師招聘職員研修を実施する。 ・ケース会議(スクラム会)を開催するとともに、学校支援会議を実施し、情報共有をする。	・特別支援教育に関する講師招聘職員研修を実施する。 ・ケース会議(スクラム会)を開催するとともに、学校支援会議を実施し、情報共有をする。						

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				◎志を高める教育	◎ふるさと三瀬への郷土愛の育成	◎ふるさと学習を通して、「三瀬を好き」と答える児童を80%以上にする。	・地域人材を活用し、系統的なカリキュラムを実践する。 ・体験活動、調べ学習を通して、自然・産業・歴史・環境に触れさせ、ふるさと三瀬を好きな児童を育てる。		
○小中一貫教育	○小中合同行事の充実	○小中合同の行事、体験活動において「楽しかった」という児童の割合を80%以上にする。 ○小中の学習の規律を示した「三瀬校スタンダード」において、「できた」という児童の割合を80%以上にする。	・行事ごとに縦割り班での振り返りを掲示板に貼り交流を深める。 ・「三瀬校スタンダード」を掲示し随時指導する。児童に前後期ごとの自己評価を行わせる。						

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</li> </ul>
----------------	--